

令和6年度 自己評価および学校関係者評価書

令和7年3月14日
函館市立中の沢小学校

1 本年度の重点教育目標

他を思いやり、支え合う子どもの育成

2 本年度の取組の重点

- ①信頼の絆で結ばれた安心で安定した学校づくり
②児童や地域の特性を活かした「社会に開かれた教育課程」の実現
③特別支援教育の推進
④豊かな学習環境づくりの充実
⑤働き方改革の推進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の適切さ 主な意見（改善策など）
①信頼の絆で結ばれた安心で安定した学校づくり	保護者や地域の方々との連携を深め、児童が生き生きと自分らしさを発揮できる安全安心な学校を創ることができたか。	b	ウェルビーイングな学校づくりを合言葉に、保護者・地域との連携を図りながら児童が安心して通える学校づくりを推進した。自校の地域コーディネーターとの連携を通して、特色のある教育課程の充実をさらに図っていききたい。	A	B 町会の会員も高齢化が進んでいるが、交通安全運動など可能な限り実施している。より学校とも連携が進んでいければよい。
②児童や地域の特性を活かした「社会に開かれた教育課程」の実現	保護者や地域の方々との連携を深め、「開かれた教育課程」の理念を踏まえた「コミュニティ・スクール」の取組を推進することができたか。	b	包括支援センターや保育園等と連携し、保護者の協力を得ながら教育活動を行うことができた。次年度は校内の地域連携担当を中心にさらに連携を深め、教育活動を充実させたい。	A	A 学校と保育園等が連携しやすい環境が整ってきた。学校と保育園の職員が連携し、児童と園児の交流が進められて良かった。
③特別支援教育の推進	通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童一人一人のニーズに応じた特別支援教育の充実を組織的に推進することができたか	a	特別支援委員会を定期的開催し、校内の特別な支援を必要とする児童の対応を組織的に行うことができた。校内サポートセンターの設置により、児童のニーズに応じた教育を行うことができた。	A	A
④豊かな学習環境の充実	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うとともに、ICT等の教材教具を整備し、児童の学びを充実させることができたか。	a	校内研究を充実させ、授業改善に努めた。AIドリルや授業の中での効果的なICTの活用法などを教員間で共有し、児童の学びを充実させることができた。	A	B 子どもの学力格差に対応できるよう地域や保護者と連携して放課後や長期休業中の学習サポートをさらに進めていけるとよい。
⑤働き方改革の推進	保護者や地域と連携した今日的な課題への取組や校務の効率化など教職員の業務改善により児童と向き合う時間の確保に努めることができたか。	b	校務運営委員会を働き方改革のコアチームと位置づけ、業務内容を整理し、業務改善を行うことができた。次年度はコアチームを中心として計画的に校務の効率化を進め、保護者・地域の理解を得ながらさらに働き方改革を進める。	A	A 学校全体で児童に丁寧に関わる様子が感じられるが、業務が多岐にわたる中、本来必要な児童に向き合う時間が増え、働きやすい改革が進むよう願う。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。